

(別紙)

評価細目の第三者評価結果（保育所）

※すべての評価細目（55項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

A-1 子どもの発達援助

		第三者評価結果
1-(1) 発達援助の基本		
1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。		a (b) c
1-(1)-② 指導計画に基づく保育実践の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画の見直しを行っている。		(a) b c
コメント ・保育計画は、地域や保護者の実態を把握して作成されていたが、保護者の意向が十分反映されていなかった。食に関するアンケートは取っているが、保護者の意向を考慮するという意味でも、他の内容でのアンケートを行なうことが望まれます。 ・指導計画は、年、月、週に分けて作成されており、保育実践し、反省(見直しへの基盤)の内容をきちんと記載している。又、引き継ぎの資料も、しっかりとした内容で、次担任が引き継いだ子の把握がしやすいよう、的確に記されていた。		
1-(2) 健康管理・食事		
1-(2)-① 登所（保育所）時や保育中の子どもの健康管理については、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施されている。		(a) b c
コメント ・登降園マニュアルに基づいて、登園時に保護者に声をかけ、変わりがないか確認している。 ・子どもの健康管理で注意が必要なことを、園だより(4月)の”あすからおねがい”に記載し、保護者へも周知を促している。 ・体調の悪い子に対する食事の変更に関して、給食室との連携もしっかりしており、”食事表”で家庭への連絡、又、家に帰ってからの食事のあり方の指導など、充分なされており望ましいと思われる。		

	第三者評価結果
1-(2)-② 健康診断の結果や子どもの発達発育状況を、保護者に伝達すると共に、職員に周知し、保育に反映させている。	Ⓐ b・c
1-(2)-③ 歯科検診の結果を、保護者に伝達すると共に、職員に周知し、保育に反映させている。	Ⓐ b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回健康診断を実施している。毎月20日前後に身長、体重の計測を行い、発育状況は連絡ノートで保護者に伝達している。 ・毎年6月に歯科検診を実施し、2歳児までは、仕上げ磨きをするなど、虫歯の予防に努めている。 ・0歳児では赤ちゃん体操、マッサージ、1歳児以上はリズム運動(週1回木曜日)を年間通して行うなど、子どもの発達発育を手助けする取り組みがなされており、望ましいと思われる。 	

	第三者評価結果
1-(2)-④ 食事を楽しむことができる様々な工夫を行っている。	Ⓐ b・c
1-(2)-⑤ 子どもの成長過程における喫食状況等を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	Ⓐ b・c
1-(2)-⑥ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	Ⓐ b・c
1-(2)-⑦ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、家庭や専門医等と連携し、子どもの状況に応じ、適切な対応を行っている。	Ⓐ b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4, 5歳児によるクッキング保育(年4, 5回)や、ボランティア(きらきらクラブ)による食に関する話(年3回)、離乳食講習会など、食育に取り組んでいる。 ・離乳食講習会は、地域の保護者も参加し、作り方を教えるだけでなく、ベビーフードと食べ比べるなど工夫している。 ・毎月行われる給食会議には、園長・主任・栄養士・各クラスの代表が参加し、喫食状況や味付け等について話し合い、献立に反映している。 ・入所時にアレルギーの有無を把握し、除去食を提供している。除去食を食べる子の周知を徹底するため、教室に、はり紙をして知らせたり、与える際に職員が声を出し確認して与えるなど、様々な努力が見られる。 	

1-(3) 保育環境	第三者評価結果
1-(3)-① 子どもが心地よく過ごすことのできる換気、温度、採光等の環境を整備している。	(a)・b・c
1-(3)-② 生活の場に相応しい、人、物、場が相互に関連し合う環境とする取り組みを行っている。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床は木材で、掃除が隅々まで行き届いていた。上靴はほとんど使用せず、裸足だがとても安心して遊べる室内であった。又、窓も大きく採光に恵まれ、日当たり良好であった。 ・砂場の消毒には、松ヤニで作られたものを使用し、体に害にならないよう、自然なものを取り入れるなど衛生面にも配慮が見られる。 	
1-(4) 保育内容	第三者評価結果
I-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	(a)・b・c
I-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	(a)・b・c
I-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる空間、時間、物等の環境が整備されている。	(a)・b・c
1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている。	(a)・b・c
1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	(a)・b・c
1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの把握という意味で、記録を常に残し、理解を深めるための材料とされている点は大変な作業ではあるが、今後も継続が望まれます。 ・訪問調査の際、衣服の脱ぎ着をせかせることなく見守っていた。 ・一斉保育をしている中でも、子ども一人ひとりの自由な考えは尊重するなどの職員の働きかけはなされている。 ・自然に恵まれているため、散歩には近くの山、小学校、神社などによく出かけている。又、併設の幼稚園よりバスを借り、少し離れた場所に移動して自然(滝など)とふれあう機会を多く持たれている。 ・玄関に園児の作品が展示され、クラスに入らなくても保護者が見ることができ、また他の学年の作品が鑑賞できるよう配慮している。 ・同敷地に幼稚園、学童があるので、異年齢の子との交流もスムーズである。 	

		第三者評価結果
1-(4)-⑦	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	(a)・b・c
1-(4)-⑧	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慈悲（やさしい心）無我（すなおな心）因縁（つながり）をモットーに真宗保育学習会を通し、日々職員が人間を磨く努力を行い、保育をする中で、子どもと共に生き、共に育つ、ということを中心に掛けている。 ・3カ所の掲示板において、学習会での言葉を書き示し、保護者に対しても共に生き、共に育つことのきっかけ作りをなされている。 		

		第三者評価結果
1-(4)-⑨	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつ交換の場所を決め、その後はその場所も消毒するなど、衛生面に配慮がなされている。 ・乳児の睡眠時は、ややうつぶせ寝の子が多いようであったが、SIDSへの配慮として、常に保育士が保育室にいるように心掛けてあった。又、ベットでは1人ずつ、布団では寝返りを充分うてるくらいの間隔を置いて、寝かせてあった。 		
1-(4)-⑩	長時間にわたる保育のための環境が整備され、乳幼児が安心して生活できるよう、保育の内容や方法に配慮がみられる。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育の子どもの軽食は、おやつで対応している。 ・午後6時から、保育士2名で保育に当たり、必要に応じて担任を呼ぶ体制になっている。 ・長時間保育用の玩具（汽車、ドールハウス）の使用、畳のある保育室の使用など、家庭的な雰囲気もてるよう配慮されている。 		
1-(4)-⑪	障害児保育のための適切な環境が整備され、障害のある子どもへの関わりなどが保育計画の中に位置付けられ、保育の内容や方法に配慮がみられる。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育でも障害のある子を受け入れるなど、職員への障害児保育に対する認識がきちんとされており、望ましく思われる。 ・専門機関との連携も充実しており、歩行器や食事用いすなど、病院から借り入れ、成長に合わせて調節可能である。 		

A-2 子育て支援

2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	第三者評価結果
2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	Ⓐ・b・c
2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	Ⓐ・b・c
2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と、子どもの育ちを共有するための機会を設けている。	a Ⓑ・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談は、年に1回担任と20～30分行われているが、希望があればその都度、また気になる子がいれば園から依頼している。 ・現在共に遊ぶ保育参加は行われていないが、今後いろんな形で保護者に保育に入ってもらふ配慮をしていきたいという、前向きな考えをもっている。 (例 子どもの誕生日の日に半日でもいいので保育に入ってもらい、朝のマラソン、絵本の読み聞かせ、制作など共に遊んでもらう) 	
2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	Ⓐ・b・c
2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルは各クラスに配置してあり、子どもの様子に何か少しでも変わった点があれば、主任、園長、役場と連絡するシステムになっている。 ・着替えの時などに観察し、虐待の早期発見に努めている。 	
2-(2) 一時保育等の子育て支援	
2-(2)-① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育は、専用の保育室を設けていないため、1クラス2～3人で対応している。基本的には、クラス担任の職員が保育し、一時保育の専任の職員はクラスを巡回し、一時保育の子の様子を随時見て対応している。 	
2-(2)-② 育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みが行われている。	Ⓐ・b・c
2-(2)-③ 保育所での育児相談に当たって、関係機関や団体などと連携した取り組みを行っている。	Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターとして園庭解放、育児相談、育児講座、母親同士の交流の場の提供、又機関誌「きしゃぼっぽ」の発行など幅広く活動されており、望ましく思われる。 ・保健所、病院、大学教授、民生委員、児童委員などとも連携を図っている。 	

A-3 安全・衛生・事故防止

		第三者評価結果
3-(1) 安全・衛生・事故防止		
3-(1)-① 防災に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。		Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月15日前後に避難訓練を実施している。(年に1回は消防署立ち会い) ・危機管理マニュアルは各クラスに常備されている。 ・4月には新人を交えた消火器訓練など行っている。又、いつでも訓練できるよう水を入れて使用する消火器を購入するなど訓練に対して前向きである。 		
3-(1)-② 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。		a Ⓑ・c
3-(1)-③ 安全を確保するための施設、設備上の工夫がなされている。		Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者に対する訓練を、事前告知なしで実施するなど工夫している。実施の結果、室内に避難した際の鍵の閉め忘れなど、課題が多く残った。前向きに取り組んでいける土台ができたので、今後も定期的な訓練が望まれる。 ・防犯カメラ(1ヶ月録画、保存している)を4台設置し、防犯グッズ(さすまた)も備えている。 ・緊急持ちだしリュック(通報メモなど)を、園だけでなく避難場所のお寺にも保管している。 		
3-(1)-④ 衛生管理に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。		Ⓐ・b・c
3-(1)-⑤ 食中毒の発生時に対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。		Ⓐ・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理の担当は、薬品は看護師が行っている。 ・万が一に備え、連絡先一覧や、救急処置の知識、方法などきちんとマニュアル化されており、各クラスに常備されている。 		

	第三者評価結果
3-(1)-⑥ 感染症防止に関するマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	a (b) c
3-(1)-⑦ 感染症発生時に対応できるマニュアルが整備されると共に、その対応方法が全職員に周知されており、発生状況が保護者、全職員に通知されている。	a (b) c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノロウイルス、インフルエンザ、手足口病などに関する知識、処置のマニュアルは整備されている。 ・感染症をより最小限で食い止め、又予防に努めるためには、専門機関や、専門職による指導、指示を受けての職員研修等の実施も一つの方法である。 	
3-(1)-⑧ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	(a) b c
3-(1)-⑨ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルが整備されており、その対応方法について、全職員に周知されている。	(a) b c
3-(1)-⑩ 発生した事故並びに事故につながりそうな事例を全て把握するための組織的な取り組みが行われている。	(a) b c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に遊具の点検を行っており、その後の修理も迅速に行われた。修理前・修理後の写真を残しており、振り返る材料となっている。 ・事故や災害の際の連絡のマニュアルを作成しており、さらに電話口には緊急時の応答マニュアルが掲示されていた。 ・園長がヒヤリハットの研修に参加後、すぐに職員会議でヒヤリハットの事例を収集し、対応策の検討を行っていた。 	